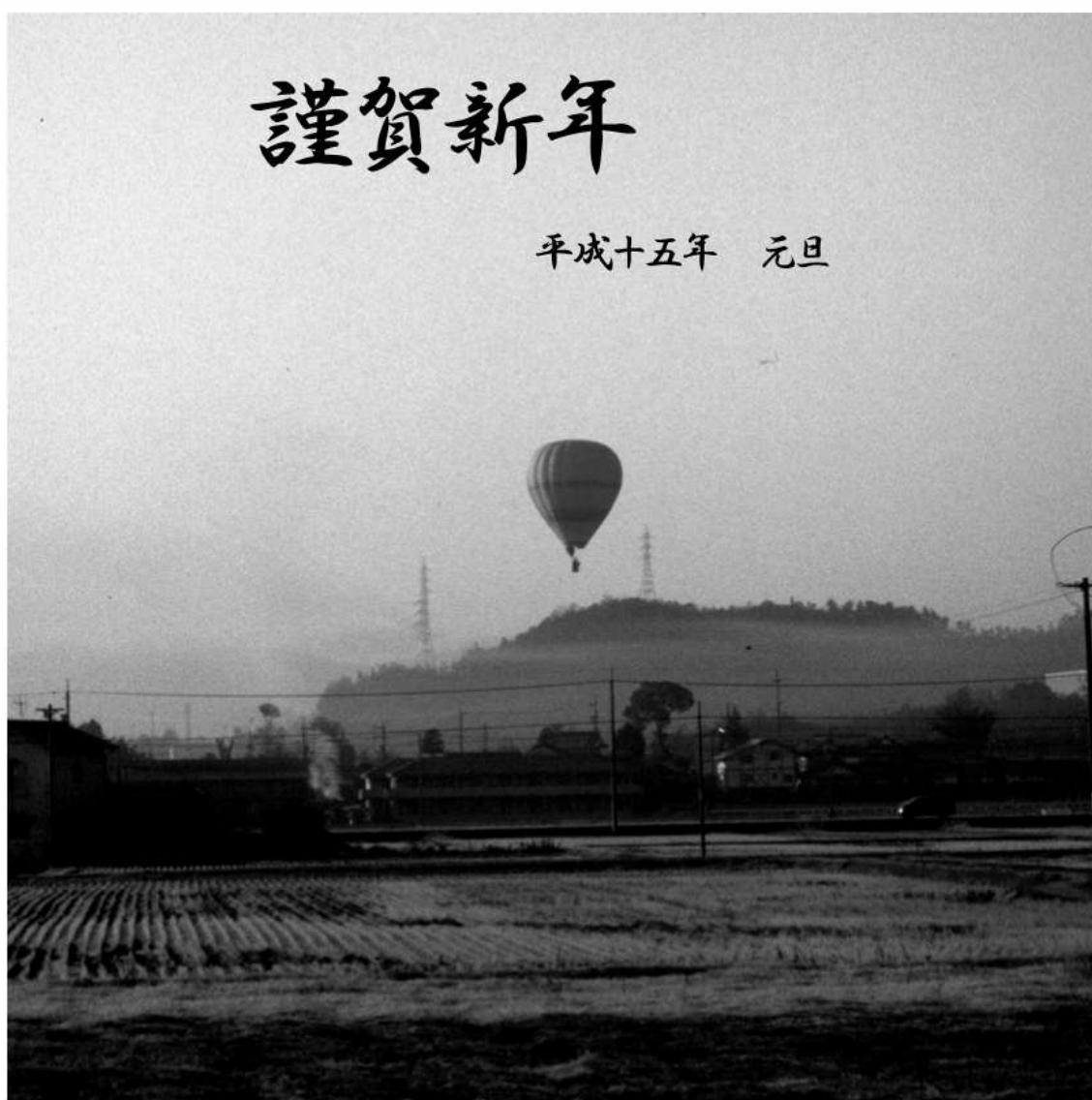


謹賀新年

平成十五年 元旦



冬枯れの田んぼから、熱気球が飛び立つ。景気浮揚の願いを込めて。
(西条・千野丸 付近)



シャープ社友会
広島支部会報
ひびき 第25号

主要記事

1面 広島支部結成10周年記念号(その一)
2面 謹賀新年
3面 春夏秋冬
4～5面 祝辞 幸会長
広島支部10年の歩み

6～8面 HOW DO YOU DO
9面 正反合 最終回
10～11面 秋の旅ア・ラ・カル・ト
12面 社友短信

セミナー&平成十五年賀詞交換会 ご案内

社友会・紅葉会行事としては過去最大の九〇名規模の参加者で開催されます。

とき 1月17日(金) 午前10時 開会
ところ ラポール広島

- 10:00 オリエンテーション 相馬代表幹事
- 10:05 厚生年金基金代行部分返上に伴う基金の運用について シャープ厚生年金基金
丹羽常務理事
- 11:10 健康保険制度の改正と対応について シャープ健康保険組合
鶴野係長
- 11:45 質疑応答
- 12:00 記念写真・休憩・会場準備
- 12:10 平成十五年賀詞交換会
- 14:00 閉会

注 自動車でご出席の方は、第3工場の従業員駐車場にお回りください。
係員の誘導に従って、駐車ください。



バランス

広島支部長 出口 昌孝

新年明けましておめでとございます。

皆様には、益々ご健勝のことと存じます。当支部は、昨年4月九州分会が支部として巣立った後も百二十名を超える規模になりました。

さらに今年は、支部設立10周年を迎える記念の年でもあり、また通過点でもあります。

これまで、先輩12名の古希を祝い、本年には喜寿の祝いを迎えられるまでもなくなり、ますますのご健勝を願うものです。

昨年末、気になる記事を読みました。「休場者続出」という見出しで、要約すると次のような内容でした。

ケガの主因は、力士の体重増。体調管理意識の变革が必要。大相撲九州場所は、大関朝青竜がモンゴル出身力士として初優勝を飾ったが、2横綱2大関を含む関取7人の休場があった。最近、力士のケガが多い。(日本相撲協会運動部 上村邦之氏談)

昔より日本人の多くは、時代の苦悩の傍ら楽しみのひとつとして、国技でもある大相撲に親しんできました。

まして昨今では、外国人力士の参入で人気アップと共に、インターナショナル化の影響もあるのでしょうか。九州場所は、九場所ぶりに横綱大関が全員出場すると見られていましたが、初日の二日前に横綱貴乃花が右ひざ痛で休場を表明しました。四日目に地元福岡出身の大関魁皇が右上腕の筋断裂、六日目には横綱武蔵丸が左手首のじん帯剥離骨折などで離脱。九日目には大関千代大海も

右腕筋を痛めて休場。番付の上から四人がそっくり姿を消すという、異常事態になってしまいました。ケガ人の多さは、「恒例行事」になりつつあり、昨年は初場所から四場所連続で9人以上の休場があり、七月の名古屋場所では16人、秋場所8人、九州場所7人と事態は深刻といえます。

最近の相撲では、力士の大型化で、寄り・押し、といった比較的単純な相撲が多いように見えます。しかし、現実には簡単にケガが発生します。どこに、何が原因なのでしょう。

食習慣や過密日程、現代っ子の軟弱さなど問題点は様々挙げられますが、「最大の原因は体重増」と指摘する声は、説得力があります。

力士の診断も多い、藤沢湘南大病院の高尾良英健康スポーツ部長は「200キロ近い力士同士がぶつかり、加速度も加わり衝撃度は測りしれない。ケガをしない方がおかしい」と話しています。現在の幕内力士の、平均体重は155キロで40年前の1962年では、117・5キロだったそうです。

番付社会である、大相撲の特性を考えると大型化は避けられない流れでしょう。237キロの横綱武蔵丸を破るためには、技能の向上以上に体を大型化し、パワーアップを図ることに専念しなければなりません。

九州場所優勝の、大関朝青竜でさえその口癖は「もつと体を大きくしたい」と、137キロの体の改造を目指しています。

力士の体を診る相撲診療所の医師からも、「大きくなるな、ということとは負ける、ということと

同じ」という声が聞かれます。そうなるかと、如何にケガを少なくするかが重要になります。関係者でも明確な対策を持ちかねているのが現状です。

日本相撲協会の、北の海理事長も「シコやテツポウの基本と柔軟体操を、しっかりとやるしかないが結局は自己管理が大切」と云っています。前記の高尾部長は、「正しいコンディショニングさえすれば、予防できるものは多い」と話しています。さらに「取り組み後にストレッチなどで筋肉のバランスを保ち、疲労を取ることが大事。筋肉は伸び縮みのバランスが悪いときに切れる。」と警鐘を鳴らしています。

最近隆盛の、ウエイトトレーニングも偏った筋肉の付け方をしていることが、ケガの一因になっていると聞きます。

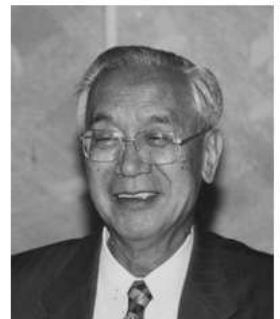
プロ野球など他のプロスポーツではアイシングやマッサージなどで身体の手入れをすることが常識になっています。一方で、取り組みが終わると支度部屋で風呂に入って、その日は終わりなのが相撲界の習慣と聞きます。体調管理の意識が低いとの指摘に、関係者はもっと耳を傾ける必要があるようです。

プロに限らず、アマの世界でも同様で特に我々の場合、年齢相応の健康管理が必要です。老化への対応と称して、基礎代謝を高め、筋肉をつけ肥満になりにくい体質・体格を目指すとか、趣味の目から筋トレに励むとか：その結果、腰痛とか捻挫とか、目的外の故障の一因とならないよう気をつけたいものです。

若くはないのですから、「年寄りの冷や水」と揶揄されないうよう、「バランス」ある生活で今後も健康第一で活動したいものです。

二〇〇三年の新年を迎えて

シャープ社友会会長 幸 實



社友会広島支部の皆様、新年明けましておめでとございます。
皆様にはお健やかに新しい年をお迎えになったことと存じます。

日本を取り巻く経済状況は、昨年もデフレ経済の進行で、雇用や所得状況など厳しさを増し、どちらかといえば、暗いニュースが多くて、景気回復の見え難い状態が続きました。

その中であって、シャープでは、広島県三原工場のオプト部品の生産開始や、三重県亀山工場の建設開始など、前向きな積極的事業を推進し、他社にならぬ先進的事業で業界の注目を集める年となりました。

昨年9月の中間決算では、売上7.7%増、経常利益21.3%増の大躍進となりました。

私は、10月19日には広島三原工場の最新鋭のオプト設備を見学させて頂きました。

世界で圧倒的シェアを持つオプトの将来にこれは、行けると自信を持ちました。

また、11月7日には、社友会の懇親会旅行で、三重県亀山町に建設中の、世界一の大きさを誇る工場建屋の液晶工場の建築現場を拝見し、思わず体が震えるのを感じました。

不況で仕事がなく、失業者が増加するという一般的経済状況の中であって、この成果は、シャープの限らない底力を示したものであり、頼もしくも、有難い限りと思っております。

トピックス

成長分野に向け、積極的な投資を進めています。

液晶カラーテレビの一貫生産工場を三重県亀山町に建設決定

液晶ディスプレイから大型液晶カラーテレビまでを一貫生産する最新鋭工場を、三重県亀山町に建設します。液晶生産とテレビ組立を一体化し、物流費の削減や納期の短縮をはじめ、設計や品質、コスト面などで一層の効率向上を実現してまいります。



▲亀山工場の完成予定地
▲亀山工場の概要
所在地 三重県亀山町
建設開始 2002年9月
稼働開始 2004年5月
生産品目 25型以上の大型液晶テレビ

広島県三原市の化合物半導体工場が、5月から操業を開始

広島県・三原第1工場が完成し、5月から操業を開始しました。AV機器やパソコンの記憶装置としてますます需要が拡大する、DVD、CDをはじめとする光ディスク機器に搭載される半導体レーザを、奈良工場と2拠点体制で、増産してまいります。



▲三原第1工場
▲三原工場の概要
所在地 広島県三原市
生産品目 第1工場:化合物半導体(半導体レーザ、発光ダイオード)
太陽電池の生産能力を200MWに倍増
世界的な環境意識の高まりにより、国内外で伸びている

第108期事業報告書より転載
新工場の建設と操業開始を伝えるトピックス

シャープ社友会の私も、太田顧問より会長を仰せつかりましてから満2年を過ぎました。今後、更に老人が増え続ける日本の社会的な環境変化として、従来のように、若い人の援助による福祉政策だけに頼ってゆくことは出来ないことは、目に見えております。及ばずながら、社友会の活動がその中の一部で「範」を社会に示すことが出来ればと考えて進めております。

まずは、社友会の独自性のある活動とは何かを模索するために、一昨年に「社友会会則」の一部の修正案を「総会」にて可決戴きました。

それに従って、皆様に社友会費の少しの値上げをお願いする代わりに、社友会クラブ活動費の増額、パソコンの導入、ホームページの開設、田辺別館5階の社友会室の改装、常駐員や設備の改善等も実施いたしました。

すべては取り掛かった所でありまして、成果はこれからであります。シャープ社友会」の独自性の芽は少しずつ見えて来た様に思います。

特に「文化、芸術」方面には傑出された方が自立つように思われます。

クラブ活動として趣味の段階で終わるのか、これが新しい社会を動かす或いは社会が認める「力」まで結集出来るか、全ては会員の企画面と努力等によるもので、ベンチユアー企業と同様の期待が持てます。

今年も社友会の中でクラブ活動を「同志が力を合わせる創作の場」に活用されますよう期待致しております。

広島支部では、すべてがこれからという段階でしょうが、独自性のある活発な活躍を期待しております。

本年も引き続き、皆様に愛されるシャープ社友会に発展するよう努力をして参りますとともに、役員一同を代表して、新年のご挨拶をさせていただきます。

支部発足10年の歩み

平成5年7月15日に、社友会広島支部が発足して、今年は十周年になりま
す。この十年の、広島支部の歩みを振り返り、諸先輩方々の活躍、ご苦労を紹
介します。

次号《4月1日発行第26号》では、これからの十年を展望します。

決められた役員体制

平成5年7月15日 支部結成総会で
選出された役員

- 支部長 故石井寛二
- 代表幹事 山田 順
- 幹事 中尾 勇
- 新田 保
- 阿川 忠亮
- 片桐 縣二

現在に続く基本事項が決まる

平成5年7月23日 第1回役員会

役員会は、毎月第3金曜日に開く
支部会報を、年2回発行する
同好会を発足させる
囲碁・ワープロ・魚釣り・ゴルフ
図書の5同好会を候補に準備
秋に一泊親睦旅行を計画する

支部会報の名称が決まる

平成5年8月20日 第2回役員会

支部会報の名称を「ひびき」と命
名した。現在も使われている紙名口

ゴは新田保さんの労作。
「ひびき」第1号発行
平成5年10月1日発行。支部発足の
挨拶、同好会活動の開始と会員募集
など。



広島支部結成総会に出席の皆さん

広島県外在任本部会員の編入
平成5年10月15日 第3回役員会
広島以外の中国および九州在住会
員の、広島支部編入について、本人
個々勧誘と、本部との調整を実施。

懇親会（秋の旅）と役員交替

平成5年10月19日 健保三原保養所
で懇親会を開催。阿川・片桐の両幹
事の転居に伴い小島武重・松岡良明
の両氏が交替就任した。

定時準社員の新入会検査

検討当初の段階では、社友会への入
会としたが、検討と準備の過程で親
睦組織「紅葉会」へと構想が変化し
た。翌年5月の結成総会まで準備が
続いた。

支部会員数ようやく19名

平成6年5月13日第1回総会および
紅葉会結成総会を行う。

社友会会員 19名

紅葉会会員 27名

中尾さんが転居のため退任。同好
会担当幹事として濱川康が就任
生産支援に会員も参加

平成6年9月、会社の要請もあり業 務繁忙の支援に役員、会員も協力参 加した。

秋の合同親睦旅行
社友会企画・紅葉会合同1泊親睦旅
行の原型となった。

平成6年10月12日 湯本・青海島 計画担当幹事を設定

会員数20名 平成7年5月19日第2
回総会 松岡さん病氣加療のため退
任、計画担当幹事に江川朝昭が就任

石井支部長逝去

平成7年7月12日、石井寛二氏が亡
くなった。同21日第19回幹事会は次
期総会までの役員体制を再編成した

支部長

代表幹事

- 山田 順
- 新田 保
- 会計兼任
- 計画担当幹事 江川朝昭
- 広報担当幹事 松岡良明
- 同好会担当幹事 濱川 康
- 会計監査 小島武重

役員改選

平成8年5月24日第3回総会で役員
を改選した。

支部長

代表幹事

- 山田 順
- 新田 保
- 総務担当幹事 吉岡秀卓
- 会計担当幹事 石井 叶
- 広報担当幹事 島田博之
- 同好会担当幹事 濱川康
- 会計監査 藤井次郎
- 会員数34名

同好会推進リーダー会議
平成8年10月28日活動強化と同好会
参加募集を目的に、初の推進リー
ダー会議を開催。

ワープロ

ゴルフ

ウオーキング

ボーリング

の同好会が活動の具体的日程と方針
を設定した。
準会員特別規定の制定

平成9年6月20日 第42回幹事会で 定年退職外の入会を可とする支部独 自の規定を制定。

九州分会設立

平成9年11月21日第47回幹事会九州在住会員の分会設立の意向を受けて、実現に取り組むこととした。平成10年3月16日分会設立が承認され6月5日設立総会が行われた。

九州分会長 檜原繁彦

会員数16名

役員体制の拡充

平成10年5月22日第5回総会 副支部長制を導入、出口昌孝を選任。他の役員は留任。

会員数47名

支部体制の強化

平成11年5月21日 第6回総会 役員を4名増員し12名体制とした。

支部長 山田順

副支部長 出口昌孝

代表幹事 新田保

企画担当幹事

同 佐々木和治
松浦義弘

同好会担当幹事

同 濱川康
細井博文

広報担当幹事

同 島田博之
車角裕規

同

同 吉岡秀卓
石井叶

総務担当幹事

同 藤井次郎
檜原繁彦

会計担当幹事

同 藤井次郎
檜原繁彦

九州分会長

同 檜原繁彦

会員数60名

同 辻村務さん逝く

同 会員・釣り同好会リーダー。平成11年10月3日逝去。

同 会報「ひびき」様式変更

同 平成11年10月5日号から様式を変更

同 A4版12ページで年4回発行とする。

同 社友会バッジ(襟章)完成

有償で、希望者に配賦した。平成12年4月入会金が改定され、以降の入会者には無償配布となった。

同 藤井会計監査退任

平成12年5月19日第7回総会 藤井会計監査が退任し、相馬さんと交替。

同 会員数68名

同 島田博之さん逝く

同 会員・広報担当幹事の島田さんが亡くなった。平成13年5月6日逝去。

同 役員新体制

同 平成13年5月18日 第8回総会

同 支部長 出口昌孝

同 副支部長 吉岡秀卓

同 代表幹事 相馬實

同 総務担当幹事 西尾弘

同 企画担当幹事 佐々木和治

同 同 細井博文

同好会担当幹事

同 河上国男
濱川康

広報担当幹事

同 車角裕規
大久保進也

同

同 松浦義弘
吉久清春

会計担当幹事

同 松浦義弘
吉久清春

九州分会から九州支部へ

同 平成14年4月1日九州支部設立総会

同好会担当幹事交替

同 平成14年5月17日第9回総会

同 同好会担当の濱川さんが退任。交替として川田正勝さんが就任。

同 会員数一一四名

発足への道

山田順

十年一昔と申しますが、今年広島支部も結成十周年を迎えます。

思えば、平成四年の秋、社友会本部懇親会で幕張ビルを見学しました。すでに話題としては「支部結成」が視野にあったものの、旅行に参加した会員の間に俄かに、現実問題として、機運が高まりました。

同年十月、有志六名で第一回の会合を行いました。会員総数わずか十五名での支部ではと、不安もありましたが、先ず作ろうとの判断が優先しました。

平成五年一月、広島在住会員に集まっていた

き、支部結成提案は全員一致の賛同があり、本格的な準備に着手しました。

事業本部のご協力をいただき、一方では本部との折衝や、会則・細則案など運営要綱関連の立案を精力的に行いました。

一方、本部の意向は当然ながら時期尚早に傾いており、経費面や会員数から活動内容の低調への危惧でした。

四月二十八日、本部総会に準備担当者全員が出席。会長をはじめ役員諸氏と意見交換、纏々支部設立の必要性を説明。設立了承の回答受理。

初代支部長は、石井常務にお願いし、事業本部のご好意で備品を含め社友会室の準備もできました。

七月十五日、本部から太田会長、吉江副会長の出席があり、事業本部から佐治事業本部長の出席を得

て、広島支部構成全会員のもとで、発足したのでした。

延々八ヶ月、二十数回の会合を重ね、曲折を経てようやく発足したことに喜びはひとしおでした。

同好会活動も始まり、親睦旅行も企画されました。

一年遅れて、本部や他の支部に無い紅葉会が発足し、現在の陣容が整いました。

この十年の中では、社会情勢の変化から、社友会にもその影響がありました。九州分会の支部昇格や発足当時の十倍近い会員組織への拡大もあり、嬉しいことです。

今後は、本部を始め各支部は、独自の新しい発想とアイデアを駆使し益々個性を増幅すると思えます。会社と社員の接点となる社友会として、今後の飛躍と発展を期待します。

ゴルフ

10月～12月のコンペ概要

平成14年度第7戦～第9戦の成績

(NETスコア)

第55回コンペ		第56回コンペ		第57回コンペ		
02.10.10/11瀬戸内シリーズ		02.11.16白竜湖		02.12.16安芸		
順位	参加者	par	参加者	par	参加者	par
1	嵐	+3	西尾	-3	稲場	-8
2	山口(春)	+5	松本(全)	-2	出口	-3
3	松本(邦)	+5	今村	-1	御船	-2
4	原田	+5	徳永(文)	0	山本(博)	+1
5	西尾	+6	稲場	+1	杉山	+2
6	杉山	+7	鈴木	+2	河上	+2
7	山本(博)	+8	山本(善)	+2	奥村	+2
8	出口	+10	杉山	+2	岩永	+2
9	佐々木	+10	奥村	+4	松本(邦)	+3
10	奥村	+12	山内	+6	徳永(文)	+3
11	山内	+13	嵐	+6	川野	+3
12	片山	+17	大和	+6	山内	+5
13	吉久	+26	車角	+6	山口(春)	+5
			岩永	+6	明石	+5
参考	初日18H		吉久	+6	車角	+6
1	佐々木	-10	御船	+7	山本(昭)	+6
2	嵐	-1	山本(昭)	+7	山本W	+7
3	山本(博)	0	出口	+9	山本(善)	+7
			小林	+9	松本(全)	+7
	2日18H		相馬	+9	嵐	+9
1	松本(全)	-7	山本(博)	+10	相馬	+10
2	中村	0	山口(剛)	+11	山口(剛)	+11
3	出口	+1	山口(孝)	+12	西尾	+13
			原田	+12	津郷	+13
25			長谷川	+13	原田	+14
26			片桐	+13	小林	+16
27			河上	+13	大和	+16
28			高見	+14	佐々木	+17
29			広瀬	+14		
30			松本(邦)	+14		
31			佐々木	+17		
32			三宅	+24		
N.ピン	嵐 杉山 山本W 出口		出口 嵐 山内 稲場		嵐 杉山 山内 河上	
	奥村 杉山 小谷 車角					

第55回コンペは、今年で4回目となる2Rツアーでした。前回は、山口県でしたが今回は瀬戸内シリーズとして、“全英への道”ミズノオーブンの舞台となった、加藤俊輔氏設計の本格的リンクスコースを、初日に設定しました。

2日目は、今年度開幕第1戦で挑んだ、瀬戸内眺望のシーサイドコースで、計36ホールでのプレーでした。両日とも好天に恵まれ、申し分の無いゴルフコンディションでした。なお、今回新たに18ホール単位での上位3位までに「お祝い」を準備し、1日のみの参加も可能となりました。

今回も、初日トップが優勝できなかった。

同好会の皆様 そして 支部会員の皆様へ

新たな年を迎え益々、社友会広島支部の活動が、より広範により盛大になりますように、ゴルフ同好会も活動目標の『会員の親睦と健康な体力づくり』の実現を目指し、気力・体力・技術の向上に努めたいと思います。

ゴルフ同好会推進リーダー 嵐 定明

いという、リンクスは健在でした。

第56回コンペは、紅葉の盛りはすぎたものの、コースのあちこちでもおも錦秋鮮やかな彩りを楽しみながらのプレイでした。

後半に至って、時雨模様で風が加わったものの、参加者数32名の盛大なコンペになりました。

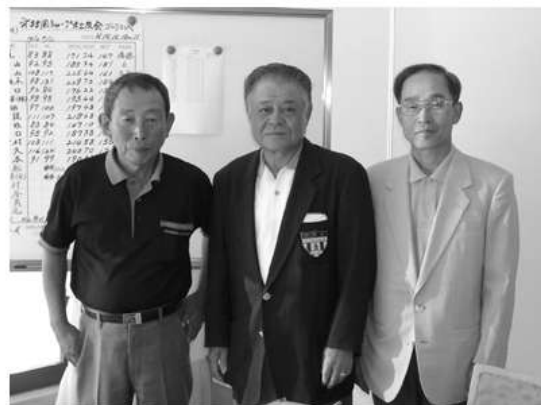
一方で、ミドル6番ホールの、急傾斜面に設定されたピン位置に、進行ペースが乱れ、ストレスが溜まり、ボヤキや溜息も溢れて、プレーヤーの性格を反映した成績結果になった?かも。

第57回コンペは、夕刻より寒波の予報だったが、後半の午後から小雨

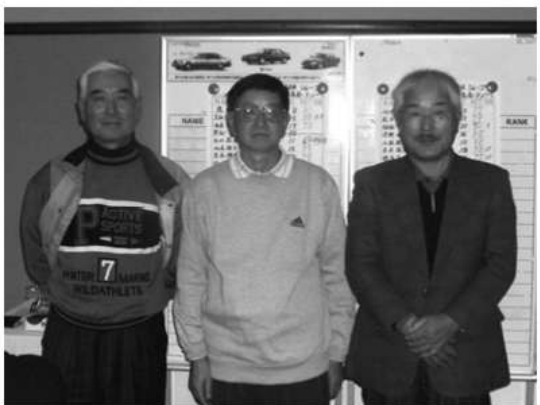
混じりのラウンドになった。

スコアの乱れが懸念されたが、優勝は前回より10ストロークも改善し8アンダーを記録した。

今年度の最終戦は、1・2月の自主トレ後の3月、賀茂CCで開催。



第55回優勝の嵐さん(中) 2位の山口さん(左) 3位の松本(邦)さん(右)



第57回優勝の稲場さん(中) 2位の出口さん(左) 3位の御船さん(右)

釣 り

10・11はアジとサバ 初参加でも満足

釣行 10月24日

今月も恒例の、鹿島から出港の船釣りで。釣れるのは、オオアジやサバです。鹿島からの釣りも今回で6回目になり、みなさんもう馴れたものです。

港をでると未だ暗いのに、早々と釣りの準備を始めます。リールを竿にセット。仕掛けOK。餌を配ります。この段階で、始める前の気分はルンルンになっています。

今回は、初参加の今井省吾さんを紹介しましょう。

囲碁、将棋同好会が 再スタートしました。

皆さん 明けましておめでとう御座います。本同好会は暫く活動を休止していましたが活動再開を待ち望む声も多く昨年十二月、新たなメンバーで再スタートいたしました。

再スタート時のメンバーは七名、十二月には十名に達し大きく発展しております。定例活動日は毎月、第一月曜日十時半から正午までとし、指し足りない時は延長戦で三時まで活動する事にして、ます。



在職中はデザイン部門で活躍。御年は私と同年の15年9月生まれで、油絵・ガラス細工・太極拳など多趣味の持ち主。前々からやってみたかったという船釣りです。

ポイントに着きました。この船でアジやサバを狙うときは、アンカーを降ろし、船を止めて釣ります。

ポイントの海底は砂地ですから、根掛かりはありません。本当に釣りやすい釣りといえます。

釣り始めて30分、撒き餌に集まってきたのでしようか、全員に当たりがでます。入れ食い状態で、一度に3匹・4匹、と釣れます。

今井さんは、船の先端で頑張っています。どうも、定位置として決めてしまったようで、次回も先端でした。

釣行 11月25日

そろそろ、アジ・サバのシーズンも終わって、メバルが来てもいい頃だと思つてこの日に設定。

ところが、前日になって船頭さんから電話。メバルには未だ早く、アジサバがなお釣れている。サビキを持って来るように。

慌てて、餌の準備に走りました。

今月の初参加は、三宅一成さん。うんと昔には経験あり、中国滞在中に、暇つぶしにやったのが、直近の経験だそうです。釣りの感触は当然記憶にあり、初体験ではないと、特に強調いただきました。

その三宅さんも、釣果には満足の様子でした。



Wでゲットした三宅さん。その後ろ横向きは今井さん。潮の流れは船尾から船首へ。撒き餌も同じ方向に。

今回は、納竿に少し時間があつたので、ポイントを変え、ハゲを狙ってみました。なんとか、夜食にハゲ鍋ができる程度にして、帰途につきました。船頭さんが、お土産に準備

してきてくれた甲イカも加わり、食卓は賑やかでした。

川田 正勝 記

グラウンド ゴルフ

新規会員を迎えて新たな活動展開

昨秋以降、松岡さん、中野さん、新田さんと三名の入会がありました。

会の活動も新しい展開が期待できる環境が整ったと、喜んでおります。昨年4月から23回の活動をしたま

とめとして、12月6日9名の参加をえて、8ホールを2回回る、正規のルールでプレー例会を行いました。

- 優勝 金子 占領
- 準優勝 山口 春香
- 3位 山田 順

記 河上

ボウリング

二〇〇二年度の活動

『定期総会・忘年会で締めくくる』

早いもので、新世紀に入って三度目の新年を迎えました。

今年も元気な一年でありますよう会員皆様のご健康とご多幸を祈念いたします。

さて、我が同好会は去る12月14日月例会を行い、終了後に忘年会を兼ねた昼食会と同好会定期総会を開催、一年を締めくくりました。

定期総会では、月例会・大会の開催日時と開催頻度、大会時の各人ア



【ボウリング同好会 2002年活動総括】

登録会員数	27人	社友会員 18 紅葉会員 3 夫人会員 6
活動回数/年間	15回	月例会 12 大会 3
参加人員/延べ	212人	年間総参加者数
参加人員/1回	14人	
最多参加者/年間	15回	出口昌孝 吉岡秀卓
ゲーム数/延べ	424G	年間総ゲーム数
ゲーム数/1回	2G	
平均AVG/年間	124点	会員・一般を含む
最高AVG/会員	169点	小西順三
最高AVG/一般	161点	車角裕規
ハイゲーム/男性	225点	細井博文 5月大会
ハイゲーム/女性	192点	半田峰子 9月大会
ノーミスゲーム	2回	細井博文 藤田喜弘
最多優勝者/通算	4回	車角裕規

ベレージの算出方法などの見直し・審議を行い決定しました。

また、忘年会ではかに会席の美味を食しながら楽しく語り、一年間の健闘と健康を感謝しました。

振り返れば、97年に4人でスタートしたこの同好会も、当時は参加者が集まらず月例会をしばしば休会したこともありましたが、現在では、登録会員も27人を数え

第19回新春ボウリング大会

とき 1月25日(土) am10:00 スタート
 ところ 賀茂ボウル
 参加費 ¥2000 当日会場にて受付
 参加申込 1月15日(木) 締切 社友会室ポストへ
 競技 2ゲーム合計得点で順位決定
 ハンディキャップあり 当日発表
 表彰 優勝者にトロフィー(持回り) & 賞品
 入賞者に賞品

るに至り、これもひとえに会員皆様のご協力のお陰と感謝しています。ここで、この一年のトピックスと活動状況をまとめたので、紹介します。

【二〇〇二年トピックス】

- ① 4人の新入会員を迎えた
- ② 月例会・大会が一度の休会もなく開催できた
- ③ 大会参加者(3回合計)が昨年の59人から69人と10人増加した。
- ④ 第17回大会で、初の「ノーミス賞」が2人出た。
- ⑤ 新しい優勝トロフィーを購入した。

吉岡 記

パソコン

ビギナーコース
 双葉会(仮称)開設
 毎月第1水曜日 午前11時
 通常月例会 午後1時
 於 社友会室



自分の知らないことは、誰かが知っている。知っている知識や情報を、会員相互に回付

パソコンに限りませんが、初めてやってみようと思えば、不安があります。その不安は、いつしか解消するものですが、新たな懸案や障害や、途中で止めたくなる条件が発生する場合があります。

うまく行った経験、失敗して酷い目にあつたこと、試してみたことなどを、語り合つて一人のノウハウが共有されるように、同好会を運用しています。今から始めたい方も、毎月第1水曜日 午前11時スタートします。

前24号では、スペースの都合で連載を中断しました。今回は最終回になりますが、前々号(ひびき23号)を読み返していただければ、より面白く読んでいただけたと思います。

次に少し難しい話ですが、なるべく面白く続けます。

前回ご説明した宇宙の始まり「ビッグバン」の大爆発で空間が急速に広がり、四方に飛び散った物質(主にガス)が、学校の先生の言う通り、全ての物質は引力をもっているので互いに吸い寄せられて各所で点々と集まってきます。

集まった場所は、他の薄い場所より強い引力になりますから更に急速に集まって大きな塊になってきます。引力は益々強大になり周りのガスや塵が早いスピードで集まるというよりも落ち込むようになると、摩擦熱が発生し数万度を超える温度になりますので、遂には光りを出すようになります。

こうして星の卵が誕生します。星の標準的なものの一つが太陽です。太陽の中心は1400万度Kという高温のガス体で直径140万キロ、質量(重さ)は地球の33万倍です。高熱と強大な重力によって核融合反応が起こって水素ガスがヘリウムガスに変わり、毎秒1兆個の水素爆弾に相当するエネルギーを作り出しています。しかし、このエネルギー放出のために毎秒400万トンの物質を放出して失うため太陽の寿命は約100億年で終わります。現在はその中ほどにあるといわれます。

「空間と重力」でガスや塵が集まらなければ、太陽は生まれないのです。こうして生まれた太陽も「空間と重力」の作用の結果、最後には燃え尽きて死を迎えるのです。(正反合)太陽を例に上げましたが、全ての星はそのような運命を持ちます。太陽、地球を含む銀河系内では、毎年約10個の星が誕生し死んでいます。

太陽、地球、星等の誕生の様子や、死の様子等は多くの書に記述がありますので、そちらに譲ります。ご興味のある方は、我々も自然の一員として、どのように、かかわっているのかを知る意味でご研究下され

ばお役に立つと思います。

昔、錬金術といって「金」(おかねではありません)を作ろうと多くの人が試みましたが失敗しております。「金」は非常な高温と圧力が

正反合

最終回

社友会 会長
幸 實

なければできません。

今私達が持っている「金」は太陽の持つ温度と重力でも作るのには不足で、太陽の5倍以上も質量のある大きな星が「死の瞬間」に超新星爆発を起こし、その時の爆発温度と圧力で「金」ができて宇宙空間に放出されたものです。「金」は、まさに大きな星が自爆して死ぬ時に作った形見なのです。或いは大きな星雲同士が引力で接近して衝突する時にも超高温と超圧力を生じ「金」を作ります。こうして出来た「金」が再びガスと共に宇宙を漂い、地球が生まれた時に引力で集まって取り込まれたものです。

貴方の持つ「金」の結婚指輪は、お二人の記念品であると共に宇宙

のお星様から戴いた貴重な形見でもあるわけです。もう一度指輪を取り出してお星様の最後の姿に思いを致し感謝をしては如何でしょうか。「空間と引力」がこれに関わっていることは勿論です。

もう一つ重要なことは、宇宙の星の一生は宇宙空間のガスや塵が引力で集まって生まれ、死んだ後は再びガスや塵に戻るという繰り返し、お釈迦様のいう「輪廻」をしているということです。ですから地球上の動植物の死んだ後もまた、お釈迦様のいう「輪廻」をすると私は考えています。

そろそろ「正反合」の話の結論に致しましょう。「宇宙の一部である人類が、なぜこの宇宙を理解できるのか、これこそ私が永遠に理解できないことだ」というアインシュタインの言葉を待つまでもなく「光の速度と時間」「空間と引力」という説明し難い世界の一端を散歩してきました。実はこれ以外にも更に理解し難い世界が科学的に取り上げられておりますが省略しました。しかしこの中に流れる共通の考え方の中に「正反合」が存在するので問題が複雑になるのに過ぎないと思っております。

科学者は現在「超統一理論」を完成して宇宙を解明しようとしておりますし宗教家はそれを「神様、仏様の御心である」として信仰し説教しておりますが、いずれも「正反合」ではなく「正」の世界のみに引っ張り込もうと強制するので「?」「嘘か真か」となって納得したり完成したりすることが難しくなってくるのではないかと考えています。

私個人としては、いささかの科学技術の知識と、いささかの信仰心があって、特にいささかの信仰心については少しばかり科学的分析的に考えてゆきますと「正反合」を使って結論を出すと、難しいことが面白く判り易くなるという発想を「真しやかに」述べさせて戴きました。

以上で、口の悪いへそ曲がりの技術者を自認する私の社友会の皆様への拙文を終わります。

合掌

秋の旅 行 ア・ラ・カ・ル・ト

足摺岬から清流 四万十川を訪ねる

足摺宇和海国立公園。その一角にある「足摺海底館」に着いたら、女子職員が迎えてくれました。

曰く、視界50cm・入館料半額。誰がそんなところに行くかい！と、謹んで辞退し、およそ半数の方々は高知県立足摺海洋館へ。

残る半数は、竜串海岸に向かい砂浜でなぜか、貝殻集め。その内の数名は足を伸ばして、積年の波浪が形成した奇勝奇岩、独特の景観を觀賞しました。



波打ち際で貝殻を探す…



波に洗われ磨かれて、巻貝もカキの殻も、光っています



左から河上・西尾・金子さん

□この日、この時期珍しく黄砂が舞って、曇天の気配。
足摺岬展望台には、添乗員の入れ知恵で水平線に沈む太陽にタイムイングを合わせてやって来ました。

なんと、みるみる内にお日様が消えていきます。黄砂とは露知らず水平線はもつと下の方と、思いつつ沈む夕日を見ていました。
宿舎は、足摺パシフィックホテル。岬からは少し離れていて、斜面に建っていました。フロントロビーが最上階にあつて、翌日の朝食まで上下の移動に、まごつきました。
夕食のメインは皿鉢料理でした。カツオのタタキも、真に美味でした。



参加者中の最新入会者が、音頭をとる恒例の乾杯から、始まります。



上流にダムがない。流域に降った雨が四十万十川に流れ込む。屋形船の船頭さんが、簡単にガイドをしてくれる。××年の△□号台風では、ソコに見える家の軒先まで水が来た……。見上げた彼方のその家は、水面から20m以上も上にあるようだ。有名な沈下橋。出水時に橋の抵抗を小さくするため、欄干がない、という。しかも、橋自体が脚の上に乗っているだけ。



橋の下を通る他所の屋形船。我々のは、橋に近づいただけ。

一旦、水が出たら、凄い！と船頭さん。川底の砂利が巻き上げられて、空中を飛ぶ、そうだ。



川のエビと言っても、手長エビなのかな。茹でても揚げても、やはり赤くなる。ほんの少しだから、余計にうまい。

もうひとつ。沈下橋は生活道路で、1年に1台か2台は落ちるヨ。

屋形船が、水面を滑るように上流へ。ペットボトルが浮いているのはゴミじゃない。あれは、仕掛けた網の目印だ。その網にかかった、四万十の川エビのから揚げをいただく。

残念ながら1人2匹までの割り当て。船を降りたら、傍の土産物の店に「赤目」がいるという。話の種に見に行きました。

なるほど。名前の通り目が赤い魚でした。今度は、石です。

春秋を通じて、旅行に初めて参加された方々



赤・緑・青・白・黒・茶などがありました

桂浜に寄りました。海岸の波打ち際で今度は「石」を集めました。バスに乗る前に、土産物の店を覗いたら、先ほど集めたと同じように見える「石」を売っていました。

旅行会社ツアーコンダクターの北村水恵さん、添乗員として今回の旅行に同行いただきました。出発間際に発生したハプニングで

初日全行程に大活躍。即ち、八面六臂 当意即妙 軽妙洒脱 粉骨碎身。まずは御礼申し上げます。



北村さん

お知らせ

今回の旅行で撮影した写真は約200枚ですが、少し削除して、CDにコピーします

ご希望があれば、ご連絡ください。

社友会 広報担当まで

社友短信

今回は、同好会初参加のお二人を紹介。
 □ 年振りに海釣りを再開した、三宅一成さん。
 もちろん、釣り同好会には初参加。

道具1式を新調して11月のターゲット 鯨&鯖に挑戦。
 ダブルやらトリプルもあって、30までは数えた

がその後はやめたそう。すっかり嵌ってまた一人、会員が増えた。

給油に立ち寄ったら、バッテリー出会った川野勇さん。

ゴルフ同好会のコンペに、どうしたら出られるか、と遠慮気味に質問がありました。

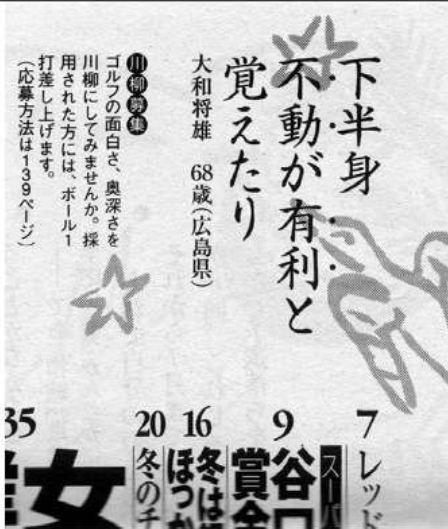
勤務先の社内コンペに、年2回ほど参加しているだけで自信はないが、時間を作れそうだから、

新会員のご紹介

平成14年10月1日から12月末までの
 入会者

毛利 齊 さん	No. 2427
山本 昭夫 さん	No. 2430
真弓 毅 さん	No. 2435
石本 和之 さん	No. 2447
中津 元吉 さん	No. 2452
勝山 敏 さん	No. 2494

住所・電話番号・Eメールなどは別途会員名簿を参照ください。



ゴルフダイジェスト12月31日号の目次ページ

とのこと。

かくして、12月度コンペに初参加。

失礼ながら、ウデの方はサビ始めた徴候もあって、本人もこんなハズでは無かったと、反省先行のスコアでした。

1月〜2月は自主トレ期間です。ぜひとも3月にもご参加を。

ゴルフ関連をもうひとつ。

弁当持参でゴルフ練習場へ行くことがあるという大和将雄さん。

その成果もあってか、スクールコンペでグロス84で優勝。

この調子では70代も狙えると、密かに期して社友会12月コンペに参加。

ところが、あがってみれば、103の大誤算でもたも弁当持参で?...

その大和さん、ゴルフ雑誌「ゴルフダイジェスト」に川柳を投稿。入選句が12月31日の目次ページに掲載された。今回で2回目だとか。

下半身 不動が 有利と 覚えたり

編集後記

□ なんだか、年々月日の経過がとても早くなった感じで、つい先日新年号を編集したのにもう!? という感覚です。

□ 幸会長の「正反合」は、今号で最終回になります。難解ではありませんが、面白い部分もありました。今号の中で、錬金術開発を示唆するくだりがあり、ひとり勝手に納得しました。

□ 今年、我が支部は設立10周年を迎えます。西尾総務担当幹事に、回顧記事の作成をお願いしました。山田前支部長にも原稿をお願いしました。紙面のサイズに合わせるため、どちらも若干割愛させていただきました。

□ 支部発足後の3〜4年は、同好会活動が極めて低調でした。平成8年の秋までいずれの同好会も、活動らしい活動ができませんでした。原因は只一つ、会員数にありました。

当会報「ひびき」も、一年間発行されなかった時期もありました。熱意を超える障害があったと、推測しています。発行部数の少なさは手作りを強要します。当然、負担が増大します。

□ パソコンを使い、編集ソフトの威力に助けられても、持ち合わせないセンスや知恵、後で気づくミスの多さに、稚拙さが続いています。

□ 今号は、12ページに拡大しました。おそらく次号(第26号)も同様に、充実した10周年特集号をお届けできると思います。(裕)